

2016(平成 28)年度 事業報告

一般財団法人 芙蓉協会

1. はじめに

2016 年度は、“地域包括ケアシステム”が明らかになりつつある中で、私たちの持つ医療・保健・在宅の3事業を「聖隷らしいサービス」として提供していくこと、また病院と健診センターは現有する機能と利用者ニーズが合わない点から改修などの効果的な投資を行うことを掲げた。

しかしながら、「聖隷らしいサービス」を展開するための経営の安定化は必須条件であるにも関わらず、病院経営の悪化により大きな赤字決算を出す結果となってしまった。

2017 年 1 月には、病院経営再建のために必要である、従来の急性期病棟だけでなく亜急性期機能を持った地域包括ケア病棟を 25 床開設させることができた。しかし、地域包括ケア病棟開設のために必要な改修などの整備をしている間、入院患者の平均在院日数は短縮(対前年 0.2 日短)し、病床稼働率は低下(対前年 1%減)するなど、入院収益では大きな減収となってしまった。これは、急性期患者確保への対策が出来ないまま地域包括ケア病棟開設を迎えてしまったことが原因であり、経営を任されている責任者として大いに反省すべきことであると自覚している。この反省を踏まえ、次年度には急性期患者確保策、地域包括ケア病棟増床をもって経営改善を図りたい。

そのような状況から、病院の改修計画は見送り、健診センターの改修のみ手がけた。健診センターについては、内視鏡ニーズが高まる中、内視鏡室の増室ならびに職員導線を短くすることで業務の効率化を図れるよう改修を行った。これにより、施設内受診者数は、対前年 11,049 件増、胃カメラ実績は、改修工事期間 2 週間休診としたが、前年よりも 186 件増の 3,931 件となった。

2016 年度は、大幅な減収、減益となってしまったことへの責任は大きいと感じている。この反省から、2017 年度は、事業計画ならびに予算管理を徹底していき、当法人を取り巻くパートナーへの信頼をも勝ち得るようにしていく。

※各事業別の主な経営成績は以下の通りである。

(千円)

科目	事業別	前年実績	平成 28 年度				対前年 実績比
			予算	実績	差異	対予算比	
医業収益		8,633,927	9,096,760	8,474,061	-622,699	93.2%	98.1%
	病院	6,773,008	7,198,850	6,535,655	-663,195	90.8%	96.5%
	健診	1,562,647	1,554,480	1,615,057	60,576	103.9%	103.4%
	在宅	185,991	226,430	209,158	-17,272	92.4%	112.5%
医業費用		8,701,759	9,030,830	8,751,248	-279,582	96.9%	100.6%
	病院	7,057,659	7,320,220	7,013,932	-306,288	95.8%	99.4%
	健診	1,333,031	1,387,280	1,414,508	27,228	102.0%	106.1%
	在宅	210,188	226,970	227,182	212	100.1%	108.1%
経常利益		-43,219	85,000	-254,647	-339,647	—	—
	病院	-251,773	-84,270	-439,916	-355,646	—	—
	健診	230,682	168,000	202,202	34,202	120.4%	87.7%
	在宅	-22,128	1,270	-16,933	-18,203	—	—
当期純利益		-43,271	51,000	-261,061	-312,061	—	—
	病院	-251,716	-84,470	-444,199	-359,729	—	—
	健診	230,574	134,200	202,024	67,824	150.5%	87.6%
	在宅	-22,128	1,270	-18,886	-20,156	—	—

2. 聖隷沼津病院

2016年度の事業計画の中で“select（選択）”“structure（構築・建築）”“seamless（継ぎ目のない）”と3つの「S」を用いて今後の方向性を示した。

“select（選択）”では、地域包括ケア病棟を選択し、2017年1月に25床開設させることができた。開設後は、稼働率80%を維持し、院外からの患者は21名の受け入れを行うなど順調なスタートを切ることが出来た。地域包括ケア病棟開設と同時に急性期入院患者が増加し、病床稼働が高まったことから地域包括ケア病棟へのスタッフ人員が割けず8割稼働となっているが、必要な人員確保を行い2017年5月に行う増床（44床）へ備えたい。

“structure（構築・建築）”では、病院A棟の大規模改修工事を計画した。改修計画については、病院経営の悪化から計画そのものを見直しせざるを得なくなってしまった。改修が必要な箇所については、経営再建から得られる資金を基に次年度以降少しずつ手がけることとしたい。

“seamless（継ぎ目のない）”では、健診・病院・在宅サービスとの継ぎ目のない連携を目指した。健診センターとの連携については、一昨年度から継続した取り組みにより、2014年度2,125件、2015年度2,531件、2016年度2,712件と着実に成果を出している。病院と在宅サービスについては、それぞれが単独で成り立っていたが、地域包括ケア病棟開設を境に在宅復帰への連携は欠かせないものとなる。地域包括ケア病棟開設のための会議にも、在宅サービス部の職員が参加し、病院を退院し看護小規模多機能型居宅介護事業所せいいろ緑町への入所も件数的にはまだまだ少ないが、連携が取れつつある。今後も更なる連携を図りたい。

	前年実績	予算	実績	対予算差	対前年差
入院1日平均患者数（人）	163	185	160	-25	-3
単価（円）	47,922	48,000	47,585	-415	-337
外来1日平均患者数（人）	618	630	596	-34	-22
単価（円）	20,421	20,200	20,136	-64	-285

3. 聖隷沼津第一クリニック（聖隷沼津健康診断センター）

2016年度は、聖隷保健事業部とサーバ共同利用によるデータの一元管理を開始した。これにより聖隷保健事業の顧客IDの統一、データヘルス活用への一歩を踏み出した。施設内においては、①顧客視線を意識した舞台裏を見せない区域分け、②保健指導強化と効率化のための3階配置再編成、③運動指導の充実、④胃カメラ増と午後活用のために内視鏡増室の改修を行った。内視鏡検査は改修工事期間2週間休診としたが、前年よりも186件増の3,931件の実績となった。

施設外においては、日本大学職員健診・平安・万城食品等の新規事業所を増やすことができた。

新しく始まったストレスチェックも26社、6,865件の実績となった。

組織として、課を超えた傾斜配置により効率的な運用を行うことができ、施設内・外共に順調に業績を伸ばすことができた。

センター全体では、2015年、2016年と連続して大きく実績を伸ばすことができ、事業規模としては過去最大の16億円台となった。受診者数で前年対比及び予算に対し約9%増、収入では対前年比で3.3%(5,090万円)増、対予算で3.6%(5,580万円)増となり、税引前当期純利益としては約2億円の成績で終えることができた。

2017年度の飛躍に向けての準備も、1月にはISMSの維持審査、2月には、法人として健康経営優良法人ホワイト500の認定、3月にはJKA補助事業により胃胸部併用デジタル検診車を1台増車することができた。

	前年実績	予算	実績	対予算差	対前年差
施設内受診者数 (人)	80,781	78,307	89,356	8,575	11,049
施設外受診者数 (人)	43,711	43,720	46,357	2,646	2,637
外来受診者数 (人)	5,669	5,780	5,047	-622	-733
単価 (円)	11,886	12,067	11,354	-532	-713

4. 在宅サービス事業部（聖隷訪問看護ステーション千本・ 看護小規模多機能型居宅介護事業所せいれい緑町）

2016年度は看護小規模多機能型居宅介護(看多機)事業所の運営は順調に推移した。重度な要介護状態になっても住み慣れた地域で過ごすサポートを目的に開設し、その目標は日々達成している。役割の一つである看取りも多く達成できたが、そのため終了になり29名契約までならないのが課題である。

訪問看護は地域の医師やケアマネとの連携をとり、信頼に応えることでサービス依頼につながっている。地域の病院からターミナルの利用者やサービス付高齢者施設からの依頼は多くなった。特にサービス付高齢者施設から夜間の吸引依頼がコンスタントにあり今後のニーズ拡大につながる。後期に2名の退職者があったが収益は昨年とほとんど変わらなかったのは職員の努力と業務改善にあった。看多機の看取りや重症者の介護を安全に行うため、看護師を常時1~2名出していることもあり今後は早急な増員が必要である。

リハビリは小児の依頼に的確に対応し病院医師の信頼を得た。定期的な病院医師とカンファレンスを持ち小児の成長に伴う呼吸器設定などを検討した。今後は小児の地域包括ケアシステムづくりを目指したい。

【訪問看護ステーション千本】

	前年実績	予算	実績	対予算差	対前年差
医療保険 利用者延べ数 (人)	3,346	3,340	3,404	64	58
単 価 (円)	10,802	10,900	11,128	228	326
介護保険 利用者延べ数 (人)	10,768	10,990	9,911	-1,079	-857
単 価 (円)	8,438	8,390	8,597	207	159

【看護小規模多機能型居宅介護事業所せいれい緑町】

	前年実績	予算	実績	対予算差	対前年差
契約者 延べ数 (人)	161	264	240	-24	79
月平均 (人)	13	22	20	-2	7
単 価 (円)	334,670	337,990	356,300	18,310	21,630

【2016(平成28)年度の主な行事】

法人全体

行 事 内 容	実 施 日
新入職員オリエンテーション	4月 1日、 4日
監事監査	5月 9日
理事会	5月11日、 3月15日
評議員会	5月24日
中堅職員研修(全6回)	5月19日、 7月26日、 8月25日、 10月15日～16日、11月18日、 3月 7日
新人職員研修(全2回)	6月11日～12日、 1月18日
2年目職員研修	7月 9日～10日
聖隷福祉事業団による関連法人外部監査	7月12日
インストラクター研修	9月14日
クリーンアップ作戦(河川等の清掃)	10月15日
第29回聖隷沼津学術集会	11月13日
健康経営優良法人ホワイト500認定取得	2月21日

聖隷沼津病院

行 事 内 容	実 施 日
介護職員等によるたんの吸引等の研修(第2号・第3号)	5月13日～ 6月16日 9月 6日～10月31日 1月 6日～ 2月27日
医療安全研修・セミナー	6月14日 7月 5日、12日 8月 8日、15日 9月 8日、9日
防災訓練	6月25日、11月18日
高校生一日看護体験	8月 2日、 8月17日
聖隷福祉事業団による関連法人施設基準外部監査	8月23日、 1月16日
ISO更新審査	10月18日～20日
院内感染対策セミナー	10月 3日、4日、5日 11月 1日、2日、4日、7日 12月 5日、6日、8日
医療法第25条第1項に基づく立入検査・消防立入検査	11月 2日
BLSセミナー	11月21日、11月26日
第10回地域連携懇話会	11月30日
第12回市民公開講座「乳がんが見つかることは怖くない」	12月17日
高校生職業インタビュー	2月 1日
院内ジャズコンサート	2月19日

聖隷沼津第一クリニック（聖隷沼津健康診断センター）

行 事 内 容	実 施 日
午後 胃内視鏡検査開始	8月 1日
ジャパン・マンモグラフィ・サンデー	10月 16日
地震(津波)想定防災訓練	11月 28日
感染対策セミナー	12月 1日
ISMS 教育セミナー	1月 12日
安全運転講習	1月 26日
ISMS (ISO/IEC 27001:2013)維持審査	1月 26日～27日
火災想定防災訓練	2月 17日
胃・胸部併用検診車(23号車)新規導入	3月 1日

在宅サービス事業部（聖隷訪問看護ステーション千本・ 看護小規模多機能型居宅介護事業所せいれい緑町）

行 事 内 容	実 施 日
全国訪問看護事業協会 理事	2013年 4月～
静岡県訪問看護ステーション協議会 理事	2010年 6月～
静岡県医師会 在宅医療体制整備・推進協議会委員	2015年 4月～
沼津介護保険審査会 委員	2013年 4月～
静岡県訪問看護師ステーション協議会 電話相談事業	2009年 6月～
静岡医療センター附属看護学校 講師	年 4回
千本地区ケアマネのつどい スーパーバイザー	年 4回
千本地区主任ケアマネ研修スーパーバイザー	年 4回
全国訪問看護事業協会 新任訪問看護師基礎研修 講義	4月 21日
認知症事例を通して考える パネラー	6月 24日
静岡県介護支援専門員スキルアップ研修パネラー ターミナル	8月 20日
御殿場医師会 地域包括システムの他職種協働について 講義	10月 25日
静岡県訪問看護ステーション協議会 小児訪問看護講座 講師	2回
静岡県介護支援専門員スキルアップ研修看取り事例報告	1月 29日
沼津医師会 介護保険主治医意見書の書き方 講義	1月 23日
第30回 静岡県地域医学研究会 講義	2月 4日
静岡県訪問看護ステーション協議会東部新任管理者研修 講師	1月 18日
中部地区 地域包括システムにおける他職種連携 講義	2月 25日